

令和7年3月31日

新宿区長 宛て

団体名 特定非営利活動法人チャプチャアカデミー
 所在地 東京都新宿区戸山2丁目10番1103号
 (フリガナ) モトナミ キョンヒ
 代表者氏名 元波 慶禧

新宿区協働推進基金助成金事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第10条の規定により、下記のとおり報告します。

		記	
1 収支計算額	収入	697,245	円
	(内助成金)	390,000	円
	支出	697,245	円

2 助成事業

事業名	外国にルーツをもつ子どもたちへの日本語教育・多文化共生社会の実現
実施の日時又は期間	令和6年6月から令和7年3月
対象者の範囲及び人数	外国にルーツを持つ子どもたち 15名 小中高生・保護者、国際交流に関心のある一般市民のべ60名
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・外国にルーツをもつ小中高生を対象とした日本語や教科学習の支援活動を行う。 ・自己のルーツを大切にするための特別授業を各学期末(7・12・3月)に実施する。 ・互いの母語や文化・風俗を学びあったり、体験したりするためのイベントを実施する。多文化体験や、民族音楽・民話・伝統的な遊びを体験してもらう。 ・外国にルーツをもつ中高生への進路相談及び受験のための対策指導を実施する。 ・高校中退者への高卒認定試験対策や専門学校・大学進学指導を実施する。 ・日本語教室が始まる前に料理教室や折り紙、お互いの国の様々な伝統的遊び、伝統文化を体験し話し合うことを通して、外国にルーツをもつ小中高生の居場所づくりを行う。 ※普段の授業では各々が自分の学習に取り組みながら、仲間や講師と話をかわすことなどを通して、子どもたちの居場所づくりをする。 ・カウンセリング活動事業として保護者の生活相談・支援、健

	<p>康医療相談・支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国へ留学している大学生への生活相談・支援を行う。
<p>具体的な活動状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室運営 計 37 回 会場：新宿区立大久保小学校、大久保地域センター 日時：6 月 5 日、12 日、19 日、26 日 7 月 3 日、10 日、17 日、24 日 8 月 7 日、21 日、28 日 9 月 4 日、11 日、18 日、25 日 10 月 2 日、9 日、16 日、23 日、30 日 11 月 6 日、13 日、20 日、27 日 12 月 4 日、18 日 1 月 8 日、15 日、22 日、29 日 2 月 5 日、12 日、19 日、26 日 3 月 5 日、12 日、19 日 ※いずれも水曜日 ・特別授業の実施 計 3 回 会場：大久保地域センター 日時：7 月 31 日（水）「朝鮮と日本について学ぶ授業『朝鮮通信使』」 12 月 11 日（水）「子どもも大人も楽しめる漢字遊び」 3 月 26 日（水）「『さんねん峠』をみんなで読む。」 ・イベント開催 計 4 回 韓国料理を食べながら授業前に交流会を実施 ・進路相談／進学指導 計 9 回 7 月以降毎月 1 回 ・料理教室や伝統文化の体験 計 3 回 特別授業開催時に伝統文化や遊び体験を実施 ※料理教室は時間の関係で実施できず ・生活相談／健康医療相談 計 6 回 7 月、11 月、12 月、1 月、2 月、3 月に 1 回ずつ ※健康医療相談はニーズがなかったため実施せず ・韓国で留学している大学生への生活相談・支援 随時
<p>事業の成果</p>	<p>主として新宿区在住の外国にルーツを持つ子どもたちを対象に、地域社会にや学校生活に適應するための「居場所づくり」に継続して取り組むことができた。 具体的には、日本語学習を中心として学校での授業の補助、課題提出、試験勉強の補助を実施することができた。</p> <p>今年度は 13 名の子どもたちを対象に教室の運営を行った。2025 年 1 月時点で 4 名の子どもたちが進学のため卒業した。チャプチョ</p>

	<p>アカデミーの活動を知った方から、新たに参加を希望するお問い合わせが増え、2025年1月以降新たに13名が教室に加わった。</p> <p>子どもたちが学習において何につまづいているのかを判断したうえで、子どもたちがどのような力をつけたいと思い、どうすればそれを達成できるのかを共に考えて、教材を準備している。教材に取り組んでもらうにあたっては、子ども一人に講師を一人つける形で実施している。</p> <p>そのため、ゆっくり着実に日本語を理解することができ、また、子どもたちも自らの課題に気づくことができているといえる。講師もともに日本語の学習に取り組むという形をとっているため、子どもたちは自らの学力の向上を実感することができ、学習意欲も高まるため教室に休まずに参加している。</p> <p>地域住民を対象とした、多文化理解推進のための特別授業を開催し、累計120名の参加があった。</p>
--	--

収支決算書

費 目		予 算 額	内 訳			
支 出 区 分	①使用料及び賃借料	11,000 円	1,400円(6月) 3,600円(7月) 4,600円(12月) 1,400円(3月)			
	②消耗品及び印刷費	55,444 円	本来計上分) テラン印刷費 追加分) 教材印刷費、文房具、電話機購入費 22,310円(6月) 5,699円(7月) 6,424円(9月) 3,005円(11月) 4,360円(12月) 4,320円(1月) 3,080円(2月) 6,246円(3月)			
	③委託費	0 円				
	④講師謝礼	22,000 円	16,000円(7月) 3,000円(12月) 3,000円(3月)			
	⑤その他謝礼	442,000 円	48,000円(7月) 10,000円(8月) 40,000円(9月) 60,000円(11月) 110,000円(1月) 94,000円(2月) 80,000円(3月)			
	⑥交通費	0 円				
	⑦保険料	0 円				
	⑧その他諸経費	52,924 円	教材購入費、通信費			
	⑨感染症等対策経費	1,509 円	※上限20,000円 110円(6月) 558円(12月) 283円(1月) 558円(3月)			
	⑩人件費	0 円	※下記「事業費」の25%以内 (194,959)			
事業費(①から⑩の合計)		584,877 円				
⑪ファンドレイジングに関する経費		0 円	※事業費の5%以内 (29,244)			
⑫助成対象経費(事業費+⑪)		584,877 円				
⑬助成対象外経費		112,067 円	1,699円(6月) 13,238円(7月) 14,009円(9月) 2,129円(10月) 1,987円(11月) 30,318円(1月) 26,000円(2月) 22,687円(3月) ※イベントの食材経費、送別会等の飲食経費を含む			
事業総額		696,944 円				

内 容		予 算 額	積算根拠(内訳)			
収 入 区 分	㊦ 事業収入(参加料、資料代等)	0 円				
	① 寄附金	300,000 円				
	㊧ 補助金収入	0 円	予算時	0	返還額	0
	㊨ 協働推進基金助成金	390,000 円	交付額	500,000	返還額	110,000
	㊩ 団体負担金	6,944 円				
	収入総額	696,944 円				

返 還 金	110,000 円
-------	-----------

黄色の箇所は自動計算になっています
 ピンク色の箇所は金額の確認が必要な欄です

自己評価表

1 各項目に評価点を付し、「評価の理由」欄には、判断した理由や実績、課題等を記載してください。

【評価点】 4:計画書以上 3:概ね計画書どおり 2:一部計画書どおり 1:ほぼできなかった

評価のポイント	評価点	評価の理由
地域課題や社会的課題に対して成果や効果があったか。	3	新宿区在住の外国にルーツを持つ子どもたちを対象に、地域社会に適應するための居場所として、講師とともに日本語学習に取り組んだ。また、子どもたち及び保護者だけでなく、近隣在住の一般市民を対象に文化体験等をテーマとしたイベントを開催し、多文化理解に寄与した。
事業を通じて、多くの区民の社会貢献活動の啓発に役立つものとなったか。	2	特別授業に参加した一般市民の方から、参加後のアンケートにて「イベントを楽しめた」「また参加したい」といった声が上がった。
事業計画及びスケジュールに沿って事業を実施できたか。	3	概ね事業計画通りに進めることができた。日本語教室は計37回実施した。また、多文化理解のためのイベントを計4回実施した。
実施にあたり、必要な人員や安全等の確保がなされたか。	3	日本語教室運営にあたり、ボランティアが体調不良のため参加できない時には、速やかに代理のボランティアが対応できるように人員確保に努めた。 また、日本語教室運営時やイベント開催時には、子どもたちやボランティアの安全、感染対策をその都度徹底して行っていた。
経費見積りは適正だったか。資金確保に努めたか。	1	事業開始時には、感染対策費や郵送費等必要経費を予算に盛り込むことができていなかった。その一方で、諸事情によりボランティア交通費の計上額の実績が予算を大幅に下回ることとなった。
団体の先駆性や専門性を活かすことができたか。	3	長年の新宿区における活動で培った知見を活かし、一人ひとりニーズが異なる子どもたち及び保護者とじっくり話し合い、学習計画を立てていった。 また、事業報告書を作成し子どもたちの学習状況について可視化した。

<p>継続性や発展性が期待できるものとなったか。</p>	<p>3</p>	<p>地域住民を対象に特別授業やイベントを開催した。イベントの内容は子どもたちを対象にしたものが多かったため、一般の方々が魅力を感じるものとする事ができなかったという反省点はあるが、子どもたちが自らのルーツを再確認できるきっかけづくりとなり、学びの場を提供できたといえる。</p>
------------------------------	----------	--

(裏面もご記入ください)

2 事業全体を振り返って気づいたこと等をお書きください。

<p>事業を実施したことで見えてきた良かったこと、また課題や改善策。</p>	<p>子どもたちや保護者の方から丁寧に聞き取りを行うことで、日本語学習のみならず学校生活における悩みがあることを把握した。一人ひとりのニーズに合わせて、学校での面談同席や個別サポートを実施することができた。</p> <p>また、特別授業に参加した方からは「学校で学ぶこととは違った視点があり新鮮だった」という声があり、異文化交流や伝統を学ぶ機会の創出の意義を再確認した。一方で開催時間や開催場所に対する要望もあり、次年度に検討していきたい。</p>
<p>助成金を利用することで、団体や事業にとって有益となったこと。 (例:事業運営での気づきや工夫、解消された課題等)</p>	<p>この度助成していただいたことで、新宿区民の方に当法人の活動やイベントについて知っていただく機会に恵まれた。</p> <p>また、イベント開催の際に新宿区から広報のご協力を頂いたことで、これまでアプローチできていなかった市民の方に新たに団体について認知していただく機会をつくることができた。</p> <p>毎回のイベントアンケート実施により、今後のイベント企画をより良いものにするための貴重な意見をいただくこともできた。</p>

*参加者アンケートの結果を報告してください。
*事業の成果物(冊子等)、事業の開催時の写真等提出できるものがある場合は、添付してください。

令和6年度協働推進基金一般事業助成 実施事業アンケート結果

事業名	実施日	参加人数	実施場所	アンケート結果
外国にルーツをもつ子どもたちへの日本語教育・多文化共生社会の実現				
1. 日本語教室	毎週水曜日18:00～21:00 月3～4回	従事者：20名程 生徒：20名程度（3月末時点）	大久保地域センター 大久保小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生は日本語初級レベルのため、教材指定し、ひらがなやカタカナ、漢字の学習を主に行っている。 ・中学生は苦手な漢字学習や、文章を読んで感想文を書いている。 ・高校生は3年生がAO推薦入試に向けた準備、1年生は日本語がゼロスタートのため、ひらがなやカタカナ、漢字の学習を主に行っている（現在高校2年生は在籍者なし）。また、高等学校卒業程度認定試験受験者を対象とした対策授業も行い、令和6年8月27日に合格した。 ・定時制高校、明治大学、専門学校、韓国の成均館大学合格 ・2025年1月から小中学生の新しい子どもが増え、日本語も初級レベルのため、日本語（国語）を中心に授業を実施。 ・チャプチョアカデミーに通っていた高3生が2025年4月より今度はボランティアとして従事予定。 <p>*保護者からの要望もあり、2025年4月から土曜日も希望者のみ勉強会を実施予定</p>
2. 文化芸術国際交流事業	令和6年7月31日（水） 令和6年12月11日（水） 令和7年3月26日（水） 全3回実施	7月は34名 12月は43名 3月は43名参加	大久保地域センター	<p>7月は急な悪天候により当日欠席の方もいた中で、前半は朝鮮と日本の歴史について「朝鮮通信使」の授業、後半は日本と韓国の伝統遊びを実施。学校で学ぶことは違った視点があり新鮮だった、今回のイベントで初めて当法人のことを知りまた参加したい等の感想があった。</p> <p>12月は「子どもも大人も楽しめる漢字遊び」を実施。インフルエンザ等が流行し子どもの参加人数が少なかったのが残念だったという感想もあった一方で、漢字の成り立ちを知れて面白かった、昔と今の漢字の違いを知れて良かった、漢字を使ったゲームが新鮮だった等との感想があった。</p> <p>3月は「さんねん峠を読む」を実施。さんねん峠の前に「アリラン（民謡）」と「ふるさと」を全員で歌唱。それが楽しかった、曲のメロディーが2曲とも似ていたことが驚いたとの声があった。また、さんねん峠のさび部分を全員で音読し、新鮮で良かった等の感想があった。</p> <p>*参加者からの要望として、時間を早めに実施してほしい、もう少し広い場所だと嬉しい（予定していた場所を借りられず）等の意見があり、今後検討予定。</p>
3. 進路相談サポート、高校受験対策支援事業	主に日本語教室（毎週水曜日）の授業時間前後、土曜日の午後等、毎月3～4回程度	中学3年生3名 高校3年生3名	大久保地域センター 大久保小学校	<p>進学先の学校選び、子どもたちの在籍学校の面談に同席および担任教諭とのやり取りで情報共有（保護者より日本語に不安がある等の理由による依頼）、ボランティアの大学生による進路相談、AO推薦に向けて書類準備や面接練習を実施している。</p>
4. 居場所づくり、カウンセリング活動事業	主に日本語教室（毎週水曜日）の授業時間前後、随時実施	20名程	大久保地域センター 大久保小学校	<p>授業以外の時間に子どもたちとコミュニケーションを取る等して、常に子どもたちが参加しやすい環境づくりを意識している。奨学金申請のサポート、在籍学校の面談や連絡事項等サポートを行っている。</p> <p>また、2025年1月より子どもたちの人数が増え、保護者と3者面談を実施し、現在の悩みや学校での様子を聞き取り等を行った。</p> <p>→特に新しい子どもは日本語よりも学校生活にも負担（授業についていけない、友人関係等）を感じているようで、2025年4月より土曜日にも勉強会を開催予定（1. 日本語教室のアンケート結果欄にも記載）</p>